

1. 担当 PM

稲見 昌彦（東京大学 先端科学技術研究センター 教授）

2. クリエータ氏名

加藤 路瑛（学校法人角川ドワンゴ学園 S 高等学校／
株式会社クリスタルロード代表取締役）

安東 鷹亮（フリーランス）

寺崎 優葵（情報経営イノベーション専門職大学／
特定非営利活動法人サクラテンペスタ理事長／
合同会社 Redigiform 代表社員）

3. 委託金支払額

2,736,000 円

4. テーマ名

五感情報を記録・共有するセンサリーマップの開発

5. 関連 Web サイト

こちーず：<https://kokocheese.com/>

6. テーマ概要

本プロジェクトでは、感覚過敏により外出や移動、買い物、レジャーなどに課題を抱える人々をサポートするため、地図 API を活用し特定場所の五感情報をユーザが投稿・共有できるセンサリーマップを開発した。センサリーマップではスマートフォンで外出先の感覚情報を事前に確認できるようにし、感覚過敏の人々が心構えや対策、回避ルートを立てられるようにした。

感覚過敏とは、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚などの諸感覚が過敏になり、日常生活に困難を抱える状態である。発達障害や精神疾患、自律神経失調症、認知症など様々な障害や疾患の症状として現れるが、感覚過敏自体は病名ではなく一般的な診断や対処法が確立されていない。感覚過敏がある人は光や音、匂いなどの刺激で外出に困難を抱え、特に子どもの場合はメルトダウン（パニック状態）に陥ることもあり、体力的にも大きな消耗がある。

従来は対策としてイヤーマフやサングラスなどを使用するが完全な解決にはならず、本システムにより無意識下で失われていた外出機会の提供が期待され、社会参加の促進と生活の質向上にも寄与できる。

7. 採択理由

都市生活は様々な刺激に溢れている。しかしながら過度の刺激を忌諱し、屋外での行動に不自由を感じる人々がいる。このプロジェクトは感覚過敏の人々のための特定の場所での五感情報を示すマップの構築を目指した提案であり、社会的意義のあるプロジェクトである。

リアルタイムの騒音や光その他の過敏原因に関する情報収集には課題があるが、過去にもチクチクしない服の開発などプロジェクト運営の実績も豊富にあり、感覚過敏の当事者コミュニティの構築など、応募時の提案に留まらないプロジェクトの進展を期待し採択とした。

8. 開発目標

感覚過敏の人々の参加を促進することを目的としている「センサリーマップ」と呼ぶツールの開発に着手した。このツールは、公共施設や商業施設において感覚過敏者が遭遇する可能性のあるさまざまな刺激を事前に把握し、適切な対策を講じることを目的としている。

センサリーマップの開発と普及により、感覚過敏者は予め刺激の多い場所や環境を避け、安心して外出することが可能となる。これにより、感覚過敏者が自立した社会生活を営むことへの支援が期待される。本プロジェクトは、日本国内におけるセンサリーマップの普及と発展を目指し、感覚過敏者が社会においてより活動的になることを促すことを目標としている。

9. 進捗概要

本プロジェクトでは、感覚過敏者やその家族が外出前に行き先周辺の環境や対策方法、回避ルートなどの見立てを行えるようにするため、街や施設内の光、音、ニオイ、混雑などの五感に関わる情報と、静かな場所や推奨される休憩スポットなどセンサリーフレンドリーなスポットを地図上で共有できる Web アプリケーション「こちーず」を開発した（図 1）。



ホーム画面



スポット情報画面
(刺激の多い場所)



スポット情報画面
(刺激の少ない場所)

図 1: 「ここちーず」のホーム画面とスポット情報画面

「ここちーず」では、ユーザが直感的に五感に関わる情報を投稿できるように、投稿機能を設計した。ユーザは画面上で「五感を使って投稿しよう」をクリックし、十字ボタンを使用して投稿したい位置を決定し、「座標確定」ボタンをクリックする。その後、投稿フォームでスポット名やコメントを入力し、関連する写真をアップロードすることで、簡単にスポット情報を投稿できる（図 2）。



画面下、「五感を使って投稿しよう」を選択



投稿位置を十字ボタンで決め、「座標を確定」を選択



投稿画面で必要項目を入力し投稿ボタンを押す

図 2: スポット情報投稿方法

また、本プロジェクトではスポット投稿時に選択可能なカテゴリーの充実を図り、「さわがしい場所」「まぶしい場所」「ニオイのある場所」「混んでいる場所」「しずかな場所」「まぶしくない場所」「おすすめの休憩スポット」「カームダウンスペース」「センサリールーム」「クワイエットアワー」「感覚に配慮したサービス」「その他」といった 12 種類の感覚に関連するカテゴリーを設定した（図 3）。これにより、五感情報を地図上で可視化させることを実現し、ユーザが外出時の対策やアクセス方法を検討することを容易にした。



図 3: 「ここちーず」が提供する感覚カテゴリー

ユーザは地図上に表示される五感マークをタップすることで、他のユーザが投稿した情報を閲覧することができる。地図上に表示される五感マークが多い場合には、絞り込み機能を利用することで、必要とする五感情報を有するスポット情報を容易に探すことができる。

地図上の座標やスポットに口コミ投稿するサービスは複数存在するが、感覚を主題にしたマップサービスは調査範囲では見つかっていない。また、海外においては、博物館や動物園など各施設が主体になって施設内センサリマップの提供を行なっている事例はあるものの、Web アプリケーションとしての広域を対象にしたセンサリマップの事例は見当たらない。感覚過敏者が抱える問題を解決する方法は医学領域においても福祉領域においても確立できておらず、本プロジェクトは社会的にも未踏の取り組みといえる。

「ここちーず」を利用することで、これまで社会活動に制約があった人々の社会参加を後押しし、感覚過敏者の生活の質（QOL）を向上させることに貢献できる。さらには、本サービスの普及により、照明やBGMに配慮した時間帯であるクワイエットアワーや、感覚刺激からの避難所であるカームダウンスペースな

どの導入施設や店舗が増えることが期待できる。「ここちーズ」でユーザが登録するセンサリーフレンドリースポットが増えることによって、社会全体がセンサリーアクセシビリティを考えるきっかけとなり、より柔軟な多様性社会の実現に貢献できるであろう。

10. プロジェクト評価

このプロジェクトでは、感覚過敏の人々が外出時に直面する困難を軽減し、社会参加を支援することを目的としたセンサリーマップを提供する Web アプリケーション「ここちーズ」を開発した。感覚過敏者がスポットの五感情報を投稿し共有できる仕組みを持ち、地図上に視覚的に情報を表示することで、外出前に周辺環境を事前に把握し、対策を立てやすくなった。

投稿機能では、簡単な操作でスポット情報を投稿でき、12 種類の感覚カテゴリーから該当するものを選択できるようにした。これにより、五感情報を地図上で可視化することに成功した。また、絞り込み機能を使えば、必要な五感情報を持つスポットを探しやすくなった。

従来の口コミサービスとは異なり、感覚を主題としたマップサービスは他に例がなく、感覚過敏者支援において社会的に新しい取り組みとなった。感覚過敏者の社会参加の促進と QOL 向上が期待でき、さらにはセンサリーアクセシビリティの意識向上にも寄与できるだろう。

残念ながら検証実験は 1 回しか行うことができず、システムの改善の余地はまだまだあるものの、総じてこれまであまり着目されてこなかった感覚過敏者への配慮を、テクノロジーを活用して実現しようとする斬新な試みであり、社会に大きなインパクトを与える可能性を秘めたプロジェクトだと評価できる。

11. 今後の課題

本プロジェクトそのものが広がることにより、センサリーアクセシビリティへの理解を深める効果が込まれる。2024 年の正式リリースに向けてユーザ拡大の取り組みと、施設内マップ作成機能や IoT 連携機能の実装などが重要となる。